

●胸部X線検査

所見名	説明
うきょうしん 右胸心	本来は胸部の左側にある心臓が右側にあります。生まれつきの異常によるものです。
うそくだいどうみやくきゅう 右側大動脈弓	大動脈弓が正常な場合とは逆に右後方に向かい、脊椎の右側を下降しています。生まれつきの異常によるものです。
おうかくまく きょじょう 横隔膜の挙上	横隔膜が上にあがっている状態です。横隔膜神経の麻痺、横隔膜弛緩症、肝腫大、横隔膜ヘルニアなどでみられます。
きかんしかくちょうぞう 気管支拡張像	気管支拡張症に認め、主に中層部の気管支が拡張した状態です。一昔前には円柱状気管支拡張像や嚢胞状気管支拡張像を、気管支造影検査で確定診断していましたが、現在は高解像度 CT 検査によって低侵襲で診断できます。気管支拡張症そのものは激減しており稀な所見になっています。
きかんへんい 気管偏位	気管の位置が外部組織からの影響により、左右いずれかに偏位した状態です。広範な無気肺（上掲）の場合には、無気肺化した側に気管が引き寄せられ、縦隔腫瘍などの場合には反対側に押し出されます。
き きょう 気胸	肺胞という袋状の組織が融合した大きな袋が破れる病気です。プラという空気の袋の破裂などが原因で起こります。その結果、肺から空気が抜けて萎んだ状態（肺虚脱）となり、胸部エックス線検査では虚脱した肺と胸腔内に空気の溜まりとして認められます。胸腔内圧が上昇する緊張性気胸では、縦隔部が圧排されて反対側に偏位し横隔膜が押し下げられます。
きじょうみやくよう 奇静脈葉	奇静脈が発生途中で肺を横切ったために、右肺の上部が 2 つに分かれている状態です。生まれつきの異常によるものです。
きょうすい 胸水	胸部に通常存在しない水がたまった状態です。心不全、腎不全、胸膜炎などの場合に見られます。
きょうまく せっかいえい 胸膜の石灰化影	肺を包む胸膜にカルシウムが沈着するものです。肺結核、塵肺症などの場合に見られます。
きょうまくひこう 胸膜肥厚	肺を包む胸膜が厚くなった状態です。過去の胸膜炎、肺感染症などが考えられます。
きょうまくゆちやく 胸膜癒着	胸を包む胸膜に炎症が起こり、周囲に癒着した跡です。過去の胸膜炎、肺感染症などが考えられます。
きょうまく 胸膜プラーク	胸膜プラークとは、アスベストの吸入により胸膜に生じる両側性の不規則な白板状の肥厚です。プラークの形成は、アスベスト吸入から 15～30 年かかると言われており、自覚症状はなく、呼吸機能障害も通常は見られません。胸部 X 線検査では、肺野に結節状、線状、索状影などの所見が認められます。
くどうえい 空洞影	病変の内部が液化して排出された後に、空気が入って形成されたドーナツ型の陰影で、肺結核、真菌感染、肺膿瘍、肺がんなどに見られます。
けっせつえい 結節影	胸部エックス線画像に映った直径 3 cm 以下の類円形の陰影をいいます。原発性肺がんや、大腸がん、腎がんなど他の部位からの転移、結核、肺真菌症（カビで起こる病気）、非結核性抗酸菌症、陈旧化した肺炎、良性腫瘍（過誤腫など）などに見られます。
さくじょうえい 索状影	太さが 2～3mm のやや太い陰影を索状影といいます。肺感染症が治った痕跡などとして現れます。

さこつこのいじょうかげ 鎖骨の異常影	鎖骨の異常影には、骨折や奇形、変形などがあり、まれに腫瘍が見つかることがあります。
じゅつごへんか 術後変化	胸部の外科手術の後の変化で、胸郭、肺などに変形や金属物による縫合、接合のあとが見られます。
しゅりゅうえい 腫瘤影	直径 3 cm を超える類円形の陰影をいいます。肺膿瘍、肺腫瘍などに見られます。
しょくどうれっこう 食道裂孔ヘルニア	本来腹部にある胃の一部が横隔膜の食道裂孔という穴を通して胸部内に入り込んだ状態です。胸焼け、胸部圧迫感などが現れます。
しんいんえいのかくだい 心陰影の拡大	心臓の陰影の横幅が胸の横幅の 50% よりも大きくなっています。肥満、心不全、心臓弁膜症などの場合に見られます。
しんじゅんえい 浸潤影	肺胞内への細胞成分や液体成分が入り込んで生じる境界の不明確な陰影をいいます。肺炎、肺結核など肺感染症に見られます。
せきついそくわん 脊椎側弯	背骨が、左右どちらかに彎曲していることを言います。
せつかいかえい 石灰化影	肺結核などが治ったあとに、石灰分が沈着して白く映る陰影です。肺過誤腫などにも石灰化影を見ることがあります。
せんじょうえい 線状影	太さが 1~2mm の細い線状の陰影をいいます。葉間胸膜の肥厚や、心不全でのリンパ管の拡張などで現れます。
だいでうみやくのかくちやうぞう 大動脈の拡張像	大動脈の径が拡大しています。大動脈弁閉鎖不全、大動脈瘤などの場合に見られます。
ないぞうぎやくい 内臓逆位	内臓がすべて左右逆に配置されている状態です。胸部でいえば肺や心臓、大動脈が本来ある位置と逆になっている状態です。生まれつきの異常によるものです。
のうほうえい 嚢胞影	肺胞の壁の破壊や拡張によって、隣接する肺胞と融合した大きな袋になったもので、一般には直径 1 cm 以上のものをいいます。これが破れると自然気胸という病気が起こります。
はいもん 肺門リンパ節腫大	心臓から左右の肺に入る太い肺動静脈や気管支が、心臓近くで肺門部を形成します。ここには多数のリンパ節が存在し、肺腫瘍、肺結核、サルコイドーシスなどでリンパ節が腫大した所見を示します。
はんこんぞう 瘢痕像	肺感染症が治ったあとに残った小さな痕跡の陰影です。
むきはい 無気肺	気管支が肺腫瘍や炎症、異物などにより閉塞し、空気の出入りがなくなったために、肺胞から肺胞気が抜けて部分的に肺が縮んだ状態です(閉塞性無気肺)。有効な化学療法がなかった時代に罹って治った肺結核には、広範に肺が線維化を起こして縮んでいることがあります(瘢痕性無気肺)。
もうじょうえい 網状影	肺の奥深くでガス交換を行う肺胞の支持組織を肺間質と呼びますが、そこへ細胞や浸出液が入り込むと、肺間質や周りの小葉間結合織が肥厚します。すると直径数 mm 前後の網の目状に見える陰影が広範囲に拡がって見えるようになります。肺線維症(間質性肺炎)、サルコイドーシスなどに見られます。
りゅうじょうえい 粒状影	直径数 mm 以下の顆粒状の陰影で、び漫性に広い範囲に見られる事の多い陰影です。粟粒結核、肺真菌症、びまん性汎細気管支炎などに見られます。